

# 修学資金の貸付対象の拡大により、保育士の仕事に意欲ある者の修学・就職を幅広く支援可能に

～保育士修学資金貸付制度の住所要件の撤廃～

詳しくは  
提案募集方式データベース  
「26年」  
管理番号「224」  
で検索!  
QRコードからもアクセスできます



## ポイント

自治体の判断で県外に住所があり、県外養成施設に修学する者も貸付対象とすることにより、自治体の広域的な保育士確保が可能に（通知）



## 県境を越えた修学資金の貸付により、県内で働きたい保育士を県外からも確保



### 取組の概要 「貸付対象を拡大し、保育士を目指す県外の人材も対象に」

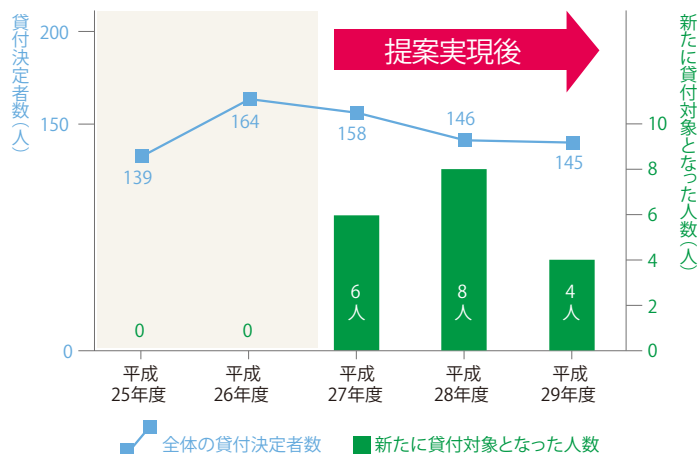
- 滋賀県では、京阪神への通勤者が多く在住するという特徴がある一方、都市部に比べて人口が少なく、保育士の養成施設も少ないという状況から、増大する保育ニーズに対し、必要とされる保育士の確保が困難となっていた。
- 近隣府県からのアクセスが良い滋賀県では、住所地や養成施設の所在地に限らず貸付を行うことができれば、より多くの保育士を確保することができるのではないかと考え、提案を行った。
- 提案の実現を受け、滋賀県が実施する「滋賀県保育士修学資金貸付事業」の実施要綱を改正し、県内に住所がなく、県外の養成施設に在学する者に対しても貸付を可能とした。



### 取組の成果 「県外で修学した保育士の就職エリアの選択の幅が拡大」

- 平成27年度から29年度までの3ヶ年度で、今まで制度の対象とすることができなかった18人に貸付を実施し、そのうち3人は滋賀県内の保育所や放課後児童クラブなどに就職。(12人は就学中)(平成29年12月末日現在)
- 次年度以降も本制度を活用した保育士が滋賀県へ就職することが見込まれており、制度利用者からは「就職先の選択の幅が広がった」など、喜びの声が聞かれている。
- 提案主体である滋賀県からは、提案の実現が県の保育士確保に寄与した、との評価がなされている。

滋賀県保育士修学資金の貸付決定者数の推移



新たに貸付対象となった人数 **18人**

貸付決定者数 **449人**

(数字は平成27年度から平成29年度までのもの)

## 保育士になりたい学生をサポート ～県内の保育士不足の解消を目指して～

### 関係者の声

滋賀県  
健康医療福祉部  
子ども・青少年局  
副主幹 小寺 厚史 氏



滋賀県では平成25年度から「滋賀県保育士修学資金貸付事業」として県内に住所がある方、または県内養成施設に在学する方に対する修学資金貸付を行っていました。

しかし、貸付を受けることができない方の中にも滋賀県に就職する意思がある方がおられることがわかり、当時は、近隣府県で修学資金貸付を実施していたのは本県のみであったことから、不足している保育士を少しでも多く確保したいとの思いで提案しました。

提案実現後の平成27年度募集分から実施要綱を改正し、平成29年度までにこれまでは対象にならなかった18人の方に貸付を行うことができました。

滋賀県では提案実現前から県外の養成施設に対しても本事業の説明、チラシの配布などを行っていましたが、事業の対象者の幅が広がったことで、今までは滋賀県への就職に興味のなかった県外在住の方が県の就職フェアに参加しているという話も聞き、他の施策とも連携した好循環が生まれていると感じています。

平成29年度からは、実際に県内の保育所で勤務されている方も出てきており、提案したことが県内の保育士確保の一助となっていることを非常にうれしく思っています。

## おおがや<sup>めぐみ</sup>愛保育園の例



「おおがや<sup>めぐみ</sup>愛保育園」の外観

## 滋賀県の貸付制度がきっかけで保育士になることができました!

### 関係者の声

社会福祉法人  
慈光福祉会  
おおがや愛保育園  
保育士 北 萌々花 氏



私は「子どもに携わる仕事をしたい」と考え、京都府にある保育系の短期大学に進学しました。弟がいることもあり、姉の私はできる限り、家計の負担を減らしたいと考え、奨学金の活用を考えていました。

しかし、住んでいる京都府には奨学金の制度がなかったためどうしようかと考えていたところ、短期大学の先生に紹介されたのが「滋賀県保育士修学資金貸付事業」でした。

就学していた短期大学では、保育士以外にも幼稚園教諭などの道も考えられましたが、この制度の活用を考え始めてから、本当にしたい仕事は何かを考え、「子どもに携わる仕事」から「保育士になりたい」と夢が明確に固まりました。

また、この事業を利用するにあたり、「滋賀県に就職する意思を有すること」が条件にありました。私は生まれも育ちも京都府でしたが、短期大学には滋賀県から通っている友人も多く、身近に感じている県でしたし、京都の実家からも十分通勤可能な距離だったため、滋賀県に就職することに抵抗はなく制度の活用を決めました。

この制度のおかげで就職先の視野が滋賀県まで広がったため、自分に合った職場を幅広く考えることができ、滋賀県の就職フェアで出会い、とても魅力的だったおおがや愛保育園に就職できて非常に良かったと感じています。

今回、「平成26年度までは国の基準で北さんは本制度の対象にはなっていなかったんですよ」と聞き、この制度がなければ保育士になっていなかったかもしれないと思いました。

実際に働いてみても、京都府の実家から通勤に不便を感じることもなく、自分の力を引き出してくれるおおがや愛保育園に就職できて本当に良かったと思っています。子どもたちに寄り添える笑顔の素敵な保育士になるよう、頑張りたいと思います。



北先生と元気な子どもたち

## 保育士として県外から滋賀県に就職を志す 若者を支援する制度改正に感謝!

### 関係者の声

社会福祉法人  
慈光福祉会  
おおがや愛保育園  
園長 樋口 眞里 氏



北さんとはおおがや愛保育園が<sup>めくみ</sup>出展していた滋賀県の就職フェアで出会いました。最初に出会った時から、非常に前向きでしっかりしたビジョンと熱意を持った方で、とても良い印象を持ったことを覚えています。

そんな北さんが当園に来てくれたきっかけになった制度改正が滋賀県の提案によって行われていたと知り、非常にありがたいことだと思っています。

また、当園に限らないことだと思いますが、保育士の確保は園としても非常に大変な課題で、新規採用や中途採用、また、育休から復帰の後押しなど、様々な方法で確保に努めていますが厳しい現状です。

都道府県の垣根を越えて本来はお会いできていなかったであろうキラキラと輝く夢を持った保育士さんと出会うことができました。この出会いに感謝するとともに大切に育てていきたいと思っております。これからも北さんのように前向きな保育士が来てくれることを祈っています。



「おおがや愛保育園」の保育の状況